

総務常任委員会

議案第96号 南相馬市情報公開条例の一部を改正する条例制定について

質疑 非公開情報の定義について何う。

答弁 情報として未成熟であつて、それを公開することが市民に正確な情報を伝えたり、誤解を与えるなどと判断されるものである。

質疑 未成熟な情報の範囲について何う。

答弁 行政として意思決定がされないもの、計画検討段階の中途にあるものである。

質疑 行政区民の名簿など既に決定した情報とすれば開示するのか。

答弁 個人情報に基づく情報については、情報公開の対象とはならない。

討論 大綱では了とするが個人情報保護という名のもとに真に必要な情報が得られない現状がある。個人情報といひながらも必要な情報は開示すべきである。今後情報公開を総合的に取り組んでいただくよう意見を附し、賛成との

意見。
審査の結果、原案の通り可決。

議案第100号・101号・102号・103号専決処分の報告及びその承認について。

質疑 55歳を超える管理職職員について、当分の間給料月額等を減額するとしているが当分の間とはいつまでか何う。

答弁 民間給与との比較において、その差異がないと判断される時期までであり、現時点ではいつまでとはいえない。

審査の結果、原案の通り承認。

議案第112号 平成22年度南相馬市病院事業会計補正予算について

質疑 新しく整備する機器の内容について何う。

答弁 オートエンボッサは診療券発行機。老朽化に伴う更新。ハンディナースコールは、看護師が詰所を空けたときにナースコールを受信する機械。不具合による更新。患者画像情報装置は、データを

管理する機械の動作が不安定なための更新である。

質疑 資金計画の中で、前年度未収金、未払い金が増額している要因について何う。

答弁 平成21年度に購入を予定していた2億円の血管造影装置を平成21年度の3月に購入したが、実際の支払いが4月となり、未払い金が発生し、未収入金も多額に発生した。

討論 現在、病院の置かれている状況についての補正は適正と考える。総合病院、小高病院の今後のあり方については、公的病院としての役割、市民の生命を守る立場を改革プランに盛り込んでいただくよう希望し賛成との意見。

審査の結果、原案の通り可決。

議案104号 平成22年度南相馬市一般会計補正予算について

質疑 退職手当積立金について、水準をどのように考えているか何う。

答弁 積立金については10年間を見据え、どの程度の積立額が必要か計算している。毎年退職手当分として6億5千万円を計上し、退職手当が6億5千万を下回った場合にはその差額を基金に積み立て、上回った場合には基

金から繰り出すこととしている。10年後を見据えると、金額の平準化が図れると考えている。

質疑 今後の公用車におけるエコカー購入の見通しについて何う。

答弁 市としてはこれまでも低燃費・低公害車を選んできたが、今後は率先して低炭素社会づくりを寄与するという観点から、ハイブリッドカーの導入を進めていきたい。

質疑 南相馬市における予備費の設定方針について何う。

答弁 予備費については県の予算編成方針と同じく予算総額の0.1〜0.5%額ベースで考えており南相馬市では5千万円程度を基準に設定している。

質疑 今回予備費については500万円の増額補正となっているが、地域経済を立て直さなければならぬという中で重要な事業の拡大を図るとか、他の事業を実施するといった考えはなかったのか何う。

答弁 国の補正予算も成立しており、今後早い時期に今ある財源の中で、最大の経済対策を視野に入れた事業展開

をしようと考えている。今の段階で留保している財源に依りて、適切な時期に必要な事業に充当する考えである。今回の予備費計上については、必要な事業費を措置した後の調整である。

討論 現在の厳しい経済環境の中、歳入部分の確保に十分配慮し、歳出についても現状をふまえた各種事業への予算措置となっている。現在の取り組み姿勢を堅持しながら、地域の活性化が図られることを期待し賛成。

審査の結果、原案の通り可決。
請願第17号 公共施設における豊の地元業者への発注について。
審査の結果、採択。



南相馬市立総合病院

建設経済常任委員会

議案第98号 南相馬市定住促進住宅条例制定について

質疑 現在、入居している市営住宅が用途廃止等になって、移転しなくてはならない状況になった時の家賃はどうなるのか伺う。

答弁 基本的に6年間をかけて現在の新しい家賃の設定をする。毎年6分の1ずつ金額を上げて、6年目には現在の入居基準にある家賃になる。審査の結果、原案の通り可決。

議案第115号 財産の取得について

質疑 取得金額の算定方法について伺う。

答弁 雇用促進能力開発機構で2社の不動産鑑定を行った結果、平均での評価が1億138万1千円という評価で、入居者付で5割という機構の決まりで、消費税を含んで5千322万5千25円になった。

質疑 この金額で取得すべきと判断した理由について伺う。



このたび市が取得した雇用促進住宅

答弁 価額に関しては、何回も交渉を重ねており、市では鹿島区の老朽化した市営住宅50戸削減での移転先としての必要性と、市営住宅の管理目標は経済不況による雇用の悪化もあって、住宅困窮者が増える要素もあり、そういった方々に適切に提供できる住宅のストックも考え、さらに新築より格安な価額となることから新たな建設の抑制に対して有効かつ必要な住居として利用できる。又これらの購入に当たっては交付金の対象となることもあって、総合的な判断の中で購入を決めた。審査の結果、原案の通り可決。

議案第104号 平成22年度南相馬市一般会計補正予算について

質疑 サンライフ南相馬管理運営事業で、冷房設備の耐用年数がきて交換するということが、どのくらい使われたか伺う。

答弁 昭和59年に建物の建設時に設置された設備なので、26年間使用された。

質疑 木質バイオマス利用施設等整備事業補助金で、発電で相当量の木材チップを使用するが、山を荒らさない、水源の涵養力も落さない中で利用の仕方について伺う。

答弁 現在の造林補助率95%で、5%の手出しであっても、山に手を加えない状況で今回のバイオマスの混焼発電は間伐材の活用であり、今まで切り捨てられていた未利用材をうまく回転すれば負担軽減になる事業である。民有林では皆伐でなく、間伐を促進するものだが、間伐材だけでは今回の4万トン、南相馬市だけでは生産能力がないため極力、市内のチップ製造業者2社に、山に置きざりになっている未利用材を多く活用して、お金が回るよう林業の再生、地域の山村経済の活性化をはかっていく。

質疑 福島県内から4万トンの木質チップを供給ということだが、南相馬市としてどのような対応になるのか伺う。

答弁 県内で4万トンの枠からどれだけ多くとるか市が内経済の活性化、林業の活性化につながる大きな課題と考えている。市内の業者の中でも数万トン単位の生産工場の新設に前向きな話もある。低コストの搬出体制の確立のために、林業機械や道路網の整備、搬出経費の一部を行政で負担するのも考えられるので、来年度に向けて施策を考えていく。

質疑 中小企業振興資金制度信用保証料補助金で、今年度の景気動向も厳しい冷え込みが続く中、建設業における利用状況はどうなっているか伺う。

答弁 例年、製造業が多いが、建設業については、公共事業の削減の影響、更には、最近民間の仕事も減少などにより今まで複数であった借入金をまとめ、月ごとの返済金を少なくするために借り換えの状況が見受けられる。

質疑 環状1号線整備事業の補償補填は、予定した物件数等の増減によるものなのか

答弁 補助起債併せて当初の補償件数は9件だったものが10件、用地費については約2千77㎡に対して2千953㎡で約876㎡増の面積を取得する。工事費1億円減はどのようなものを想定しているのか伺う。

伺う。

反対討論 環状1号線の今年度の予算額が、3億円の大会を超えた。大幅な見直しをして廃止すべきであるので反対。

賛成討論 雇用促進住宅の確保、環状1号線1億円事業費の削減、またバイオマス事業も将来地域の活性化に大きく寄与している観点から賛成。採決の結果、原案の通り可決。

請願第15号「TTPP参加に反対」する意見書の提出について
審査の結果、採択。

陳情7号「TTPP交渉参加反対」する意見書の提出について
審査の結果、みなし採択。

7 市議会だより みなみそうま (Vol.21)